

おやこであそぼう

～ 絵本と、わらべうたの時間 ～

2019年6月19日



☆～ 今月の絵本と紙芝居 ～☆

つんっ！ (ほるぷ出版) 作・絵：新井洋行

カニツンツン (福音館書店) 作：金関寿夫／絵：元永定正

かささしてあげるね (福音館書店) 作：長谷川摂子／絵：西巻茅子

かさかしてあげる (福音館書店) 作・絵：こいでやすこ

ちよろちよろかぞくのひらきます (理論社) 作：木坂涼／絵：大森裕子

おうちピクニック (世界文化社) 作：きむらゆういち／絵：とりこえまり

あめ ぽぽぽ (くもん出版) 作：ひがしなおこ／絵：きうちたつろう

あめぽったん (アリス館) 作・絵：ひろかわさえこ

かさ (福音館書店) 作：松野正子／絵：原田治

かさちゃんです。 (童心社) 作・絵：とよたかずひこ

どろんどろんにゃあ (アリス館) 作・絵：ささきみお

おーい はーい (ツポプラ社) 作・絵：和歌山静子

はーい おはよう！ (福音館書店) 作・絵：木村人

はーい！ (童心社) 作：間所ひさこ／絵：山本祐司 (紙芝居)



☆～ 今月のうた ～☆

♪かたつむり

でんでんむしむし かたつむり
おまえのあたまは どこにある
つのだせ やりだせ あたまだせ

でんでんむしむし かたつむり
おまえのめだまは どこにある
つのだせ やりだせ めだまだせ



♪ぽっつんぽっつ

ぽっつんぽっつ あめがふる
ぽっつんぽっつ あめがふる
ざ～～～と あめがふる

☆～ 酸っぱい話 ～☆

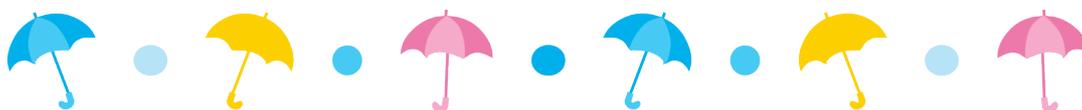
今年も「入梅」つまり梅雨入りしました。梅雨に入ってから、真夏のように暑かったり、かと思うと、前日に比べて7～8度も低い日があったり、季節が夏へ向かって、ムズムズと準備している時期なのかと感じます。

昔は、芒種後の最初の壬の日を「梅雨入り」、小暑後の最初の壬の日を「梅雨明け」としていました。「梅雨入り」は立春から数えて135日目に当たります。「青梅」が出回る頃だから「入梅」「梅雨」などと言われていますが、諸説あるようです。

最近では、梅干しを作るご家庭も少ないのですが、私が幼い頃、母と隣に住む伯母が、庭でいわゆる天日干しというのをやっていたのを覚えています。私の友人達でも、何人かは毎年、梅干しを作っています。

この何年か私は、友人から「梅の実、取りに来て」と連絡をもらい、いそいそと出かけ、まずそのお宅にある2本の梅の木から青梅を落とす作業を二人で始め、収穫した梅酒を作ったりしています。と言っても実の成る木は、実が沢山できる表、出来ない裏の年があり、自然の為せる現と付き合いながら、作業する農家の方達のご苦労は、本当に大変だと思います。

今月は歌っているだけで、お口の中が酸っぱくなる『梅干し作りの歌』をご紹介します。



♪うめぼしのうた

うめぼしのうた～ うめぼしのうた～

2月3月花ざかり うぐいす鳴いた春の日に
楽しいときも夢のうち 5月6月実が成れば
枝からふるい落とされて 近所の街へ持ち出され
何升何合 はかり売り

もとよりすっぱい このからだ
塩に浸かって からくなり
紫蘇に浸かって 赤くなる
うめぼしのうた

7月8月暑い時 三日三晩の土用干し
思えばつらいことばかり これも世のため人のため
しわが寄っても若い気で 小さい君らの仲間入り
海や山にも ついて行く
運動会にも ついていく
まして戦のその時は
なくてはならない このわたし
うめぼしのうた



次回は 2019年 7月17日 (水)

お問い合わせ クリスト・ロア修道院

TEL 042 (465) 8620